

形状観察でここまでわかる! 化粧品の使い心地

- 化粧品は、機能だけではなく見た目や触り心地などの使い心地も重要な要素
- 複合的な形状観察を駆使して使い心地に関わる因子を解析する手法をご提案

フェイスパウダーの使い心地を決定する形状因子の解析

～フェイスパウダー特徴の違い～

特徴	商品A	商品B
触り心地	さらさら	すべすべ
見た目	薄付	厚付



なぜこんなに使い心地が違うの?
何が特徴を決定しているの?

形状の分析から紐解く

～フェイスパウダーの使い心地を形状から解析した事例～

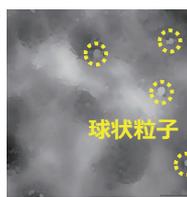
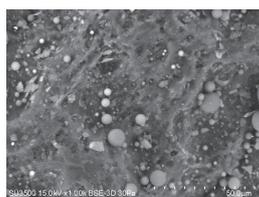
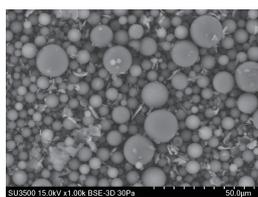
- ・人工皮膚に特徴の異なる2種のフェイスパウダーを塗布し、SEMとコンフォーカル顕微鏡で観察
- ・実体感の「見た目」と「触り心地」を定義する因子をデータ解析から検証

原材料観察

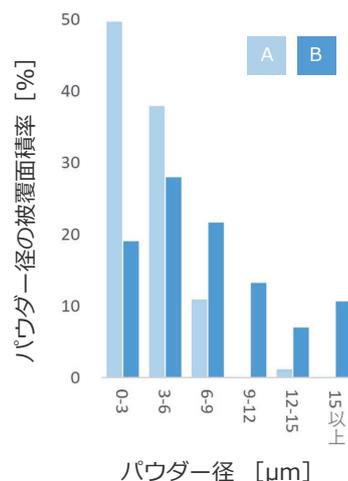
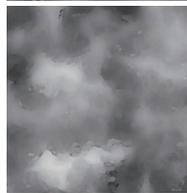
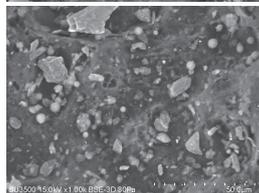
フェイスパウダーを塗布した人工皮膚の表面観察

二値化による解析結果

A



B



観察
ツール

反射電子像

反射電子像

輝度像

高さ像

SEM

コンフォーカル顕微鏡

データ
解析

試料	SEM	コンフォーカル顕微鏡		
	パウダー形状	パウダー平均径 [μm]	被覆率 [%]	Ra [μm]
A	1~20μmの球形	1.78	10.3	3.68
B	5~50μmの扁平	2.32	17.5	3.95
関連する使い心地	触り心地		見た目	表面形状

ここがポイント!

- Aは球形パウダー、Bは扁平パウダーがメイン
- Bの被覆率は、Aの約2倍
- Aは10μm以下のパウダーが主構成
- Bは20μm以上の大きいパウダーも含まれる

形状から推定される使い心地を決定する因子とモデル



使い心地に寄与する因子がわかれば、改良や開発に貢献できます!